

デジタル

高齢者へのスマホの支援は

操作支援に取り組み

格差が生じます。

今後のスマホにおける高齢者への支援について、考えをお尋ねします。

デジタル化が進展していますが、その一方で高齢者が加速するデジタル社会から取り残されないようにすることが課題となります。身近なところでスマホが多く利用されており、デジタル化が進むと、スマホを使える人と使えない人、スマホを持たない人も多く見受けられ、そこには情報

格差が生じます。今後のスマホにおける高齢者への支援について、考えをお尋ねします。

答 百田住民課長

役場住民課で、スマホお助け窓口を令和4年11月7日から令和5年3月13日まで、毎週月曜日に開設しています。11月28日までの4回の開設で、55人が利用されています。



百田 輝子 議員

また、第三小学校区のコミュニティでもスマートフォン教室が開催され、加えて町の介護予防教室わくわくデイサロンでのスマートフォンの活用も検討しています。誰一人取り残さない、人に優しいデジタル

化を推進するため、高齢者に対するスマートフォン操作支援に取り組んでいきたいと考えています。

答 平松町長

IT化やDXについては、積極的に取り組むべき時期がきていると思います。高齢者のみならず、小中学生も含めて、タブレット端末を使用した、スマートフォンを使ったりすること、生活の利便性を感じられるまちづくりを行うことが、行財政運営のソリューションにもつながります。

また、住民の皆さんに、町からの情報をより早く知ってもらうことができず。行政だけでなく、自主防災組織での工夫してもらいたい利便性を感じてもらいたいことが、我々の役割だと思っています。

※ITとは
情報技術を意味する英語の

略称で、コンピュータやスマートフォンなどのデジタル機器そのもの、その中で動作するソフトウェア、その機器を使って利用できるゲームなどのサービス全般のこと。

※DXとは
デジタルトランスフォーメーションの略で、デジタル技術を社会に浸透させて、人々の生活をより良いものへと変革すること。



詳しくはこちら



須恵町ホームページ

町政を問う!

一/般/質/問

健康

町民の視力に関する取り組みは

目に特化した啓発は行っていない

問 一昨年からのコロナ感染拡大により、パソコンやスマホなどの利用が増加し、画面を近くで見る時間が増えるなど、目を取り巻く社会環境は悪化しているとも言われています。視力への影響を不安視する事は無視できず、特に、子どもたちの視力低下の増加が懸念されています。

答 舩本健康増進課長

で環境の変化が進み、現代社会において、ICTは必要不可欠なものとなり、大学生や大人を含め、視力の維持、視力低下を防ぐ取り組みが必要ですが、中でも、若い頃から対策を講じることが重要であると思います。

そこで、町長の視力に関する取り組みについてお聞きします。

答 吉本校教育課長

本町の小中学生の裸眼視力1・0未満の児童生徒の割合は、令和4年度の検査結果で、全国の平均より高くなっています。近視の9割は遺伝と言われますが、近年の増加傾向は、ゲームやスマートフォンの活用などデジタル機器の使用や長時間の使用により、目に負担がかかっていることも無関係ではないと考えます。

答 平松町長

行政・地域・家庭が担う役割は、それぞれあると思います。視力の維持、視力低下を防ぐ取り組みの全てを行政に言われても難しいです。

答 猪股教育長

議員が提案された視力回復トレーニングについては、予防教育研修会などで紹介されている内容にもありますので、保健だよりなどを通じて、家庭でもできるような形で取り組んでいきたいと思っております。



川口 満浩 議員

町民に対し、目の健康に特化した啓発は行っていないが、学校では、保健だよりを通じて保護者や子どもたちに目の大切さや注意することなどを紹介しています。毎年行われる学校の健康診断では、視力検査を実施し、目の健康状



?